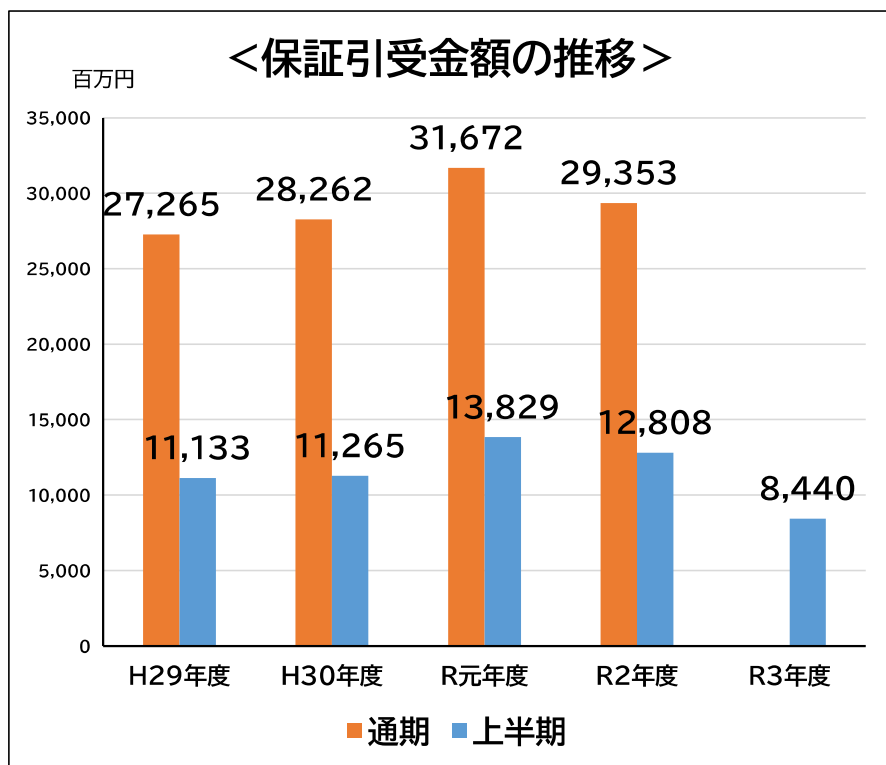


## 令和3年度上半期の林業信用保証業務実績の概況

# 1. 保証引受

- 令和3年度上半期の保証引受は、84.4億円(前年同期比65.9%)となった。
- 資金使途別では、設備資金は1.8億円(前年同期比34.1%)、運転資金82.7億円(前年同期比67.2%)となった。また、コロナ関連の保証引受は、前年度同期より13.8億円減の1.3億円(前年同期比8.6%)となった。
- このような状況は、前年度からの国全体の無利子のコロナ対策資金の充実等の影響が考えられるが、引き続き注視していく。



## <資金使途別の保証引受状況(上半期)>

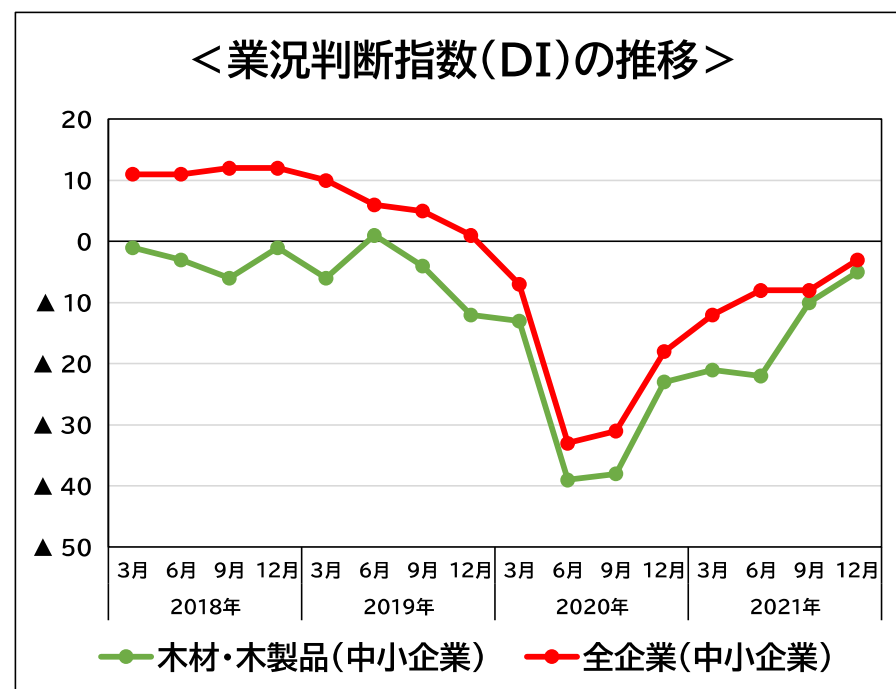
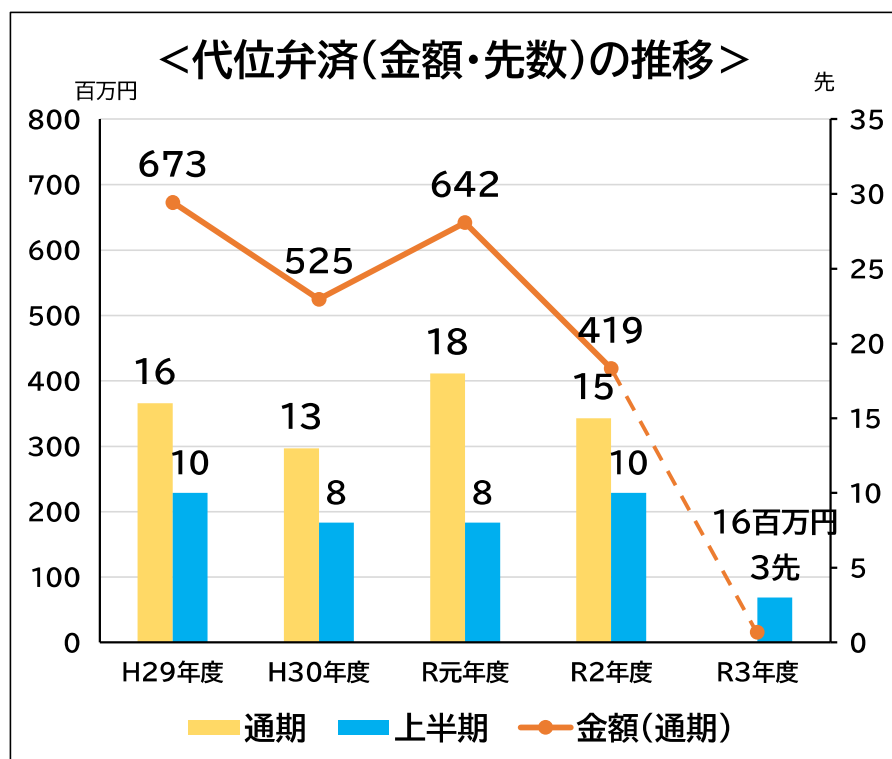
(単位:百万円)

区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度 (①)	R3年度 (②)	前年同期比 (②/①)
設備資金	433	169	954	515	175	34.1%
運転資金	10,700	11,097	12,875	12,294	8,265	67.2%
合計	11,133	11,265	13,829	12,808	8,440	65.9%
うちコロナ関連	-	-	-	1,511	130	8.6%

(注)コロナ関連:林業・木材産業災害復旧対策保証及び新型コロナウイルス感染症により影響を受けた林業者のための借換資金への信用保証

## 2. 代位弁済

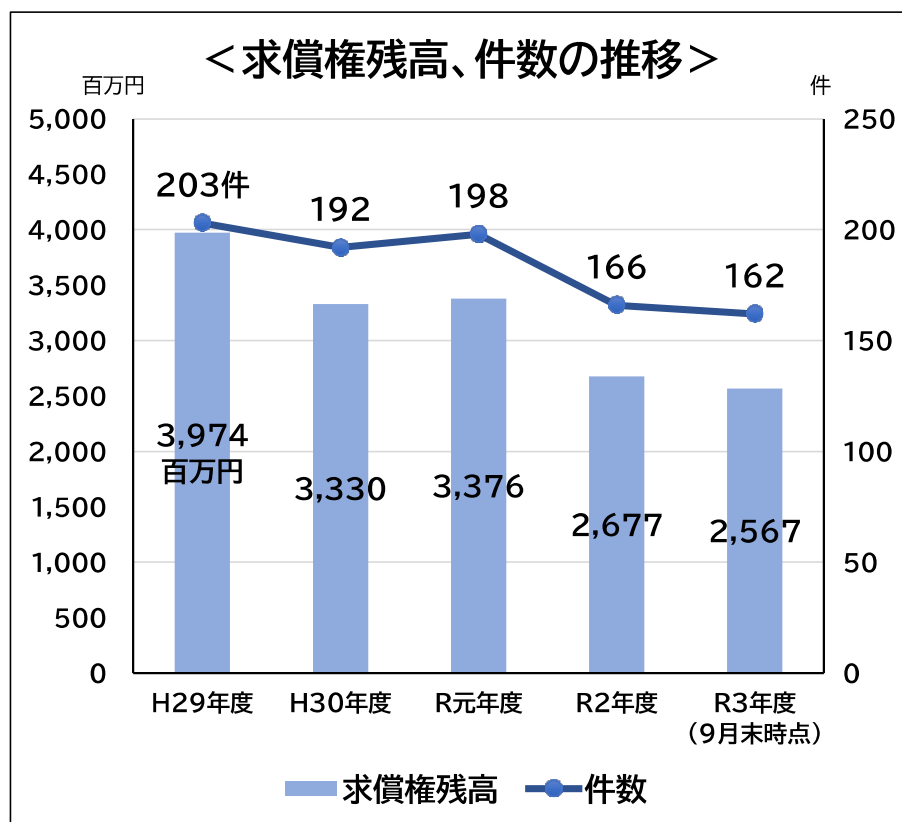
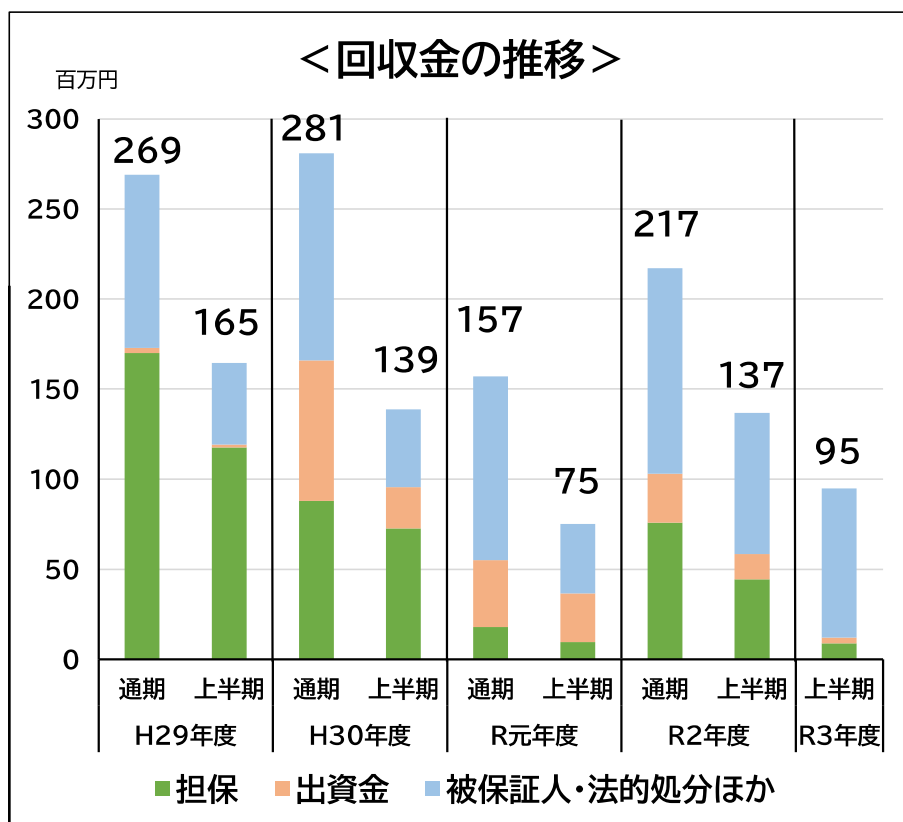
- 令和3年度上半期の代位弁済は、金額は16百万円(前年同期比7.3%)、先数は3件(前年同期比30.0%)となり、過去5年間では最小の規模となった。
- このような状況は、前年度からの国全体の無利子のコロナ対策資金の充実や、既往の債務保証に係る期間延長等の条件変更措置により、林業者・木材産業者等の資金繰り悪化が回避されていること、業況が回復傾向にあることが影響していると考えられる。



(注)・日銀短観(日本銀行の全国企業短期経済観測調査/2021年12月13日公表)より作成  
 ・DI:「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたもの

### 3. 回収金

- 令和3年度上半期の回収金は、95百万円(前年同期比69.6%)となった。なお、近年、代位弁済額は低位で推移し、求償権残高が減少していることから、回収金は減少傾向にある。
- 前年同期と比較して、担保からの回収が低調となっている。



## <参考> 最近の林業信用保証の活用事例(新規・増額案件)

### □ 素材生産業

- 被保証者： 森林組合から事業を請け負う事業体
- 資金使途： 設備資金(林業機械購入資金)
- 内容
  - ・ 米国・中国を中心とした木材需要の高まりにより、売上増加傾向にあったところ、受注量増加に対応するため、ハーベスタ等の設備導入を計画。購入資金を基金の保証付き融資により借り入れた。
  - ・ 作業効率化と事業規模拡大により、年間約20%売上増加を見込む。

### □ 木材市場・卸売業

- 被保証者： 木材の受託販売等を営む会社
- 資金使途： 運転資金(材料仕入資金等) ※1
- 内容
  - ・ ウッドショックによる国内材の高騰に伴い、木材取扱量が増加し、委託取引金額が増加。さらに、仕入販売事業も行っており、仕入単価の上昇により、運転資金が必要となったため、基金の保証付き既往債務について、増額申請した。
  - ・ 当資金調達により、経営の安定化を図る。

※1 木材産業等高度化推進資金を活用

### □ 木材・木製品製造業

- 被保証者： 建築部材の製材等を営む会社
- 資金使途： 設備資金(木材処理加工設備購入資金)
- 内容
  - ・ プレーナー、クロスカットソー等の設備購入のうち、都道府県からの補助金残額分を借り入れる際に、基金の保証付き融資を利用した。
  - ・ 当設備導入により、製材に係る処理能力の向上、生産コストの低減、高品質製品の増産を目指し、低収益体質改善を図る。

### □ 造林・育林業

- 被保証者： 竹林整備や下刈り従事する個人事業主
- 資金使途： 設備資金(林業機械購入資金) ※2
- 内容
  - ・ 搬出間伐への事業拡大のための林業機械(ミニショベル、グラップル、ウィンチ等)購入を計画。都道府県からの補助金残分を基金の保証付き融資により調達した。
  - ・ 事業拡大により、年間売上高は約20%増加を見込む。

※2 林業・木材産業改善資金を活用